

教員としての考えを広げる

「こうしなければならない」という思いが強くなってしまいがちなのが教員。だから、子供に対し必要以上に厳しく指導してしまうことがあったので反省している。

速度超過・交通安全

気を抜くと、制限速度を簡単に超えてしまうことがある。後続車が迫ってきた時は、車を停止させて道を譲るようにしている。

考え方の甘さ

「このくらいなら、まあ、大丈夫だろう」という甘い考えの継続・積み重ねが大きな不祥事につながっていると感じる。

ストレス発散

先生方は休日も学校や子供たちのことを考えている。だから、趣味や楽しみなことに没頭するなど、プライベートと仕事の区別をつけながら、ストレスを発散する時間を作るづくりのも大切である。



アンガーマネジメント

今回の対話を通して、自分は一度で指示が通らない場面でカッとしてしまうことがあったと認識することができた。

事後対応の重要性

自動車事故など、いくら注意していても起こしてしまうことがある。起こしてしまった時とその後の対応のシュミレーションを行う研修もするべき。だから、事後の対応に苦慮したり、隠蔽したりするようになってしまうのだと思う。

人権意識と生徒指導

少人数で普段から子供の様子がよく分かる環境にいる。だからこそ、子供への生徒指導をする際は、一方的な先入観をもたず、誰にでも公平に対応するようにしている。人権意識をもって、子供が納得するような指導を心がけたい。

今回の対話を通して感じたことは、「それぞれのもつ感覚や認識に若干のズレがある」ということです。そのズレから、自分が今もっている感覚や認識を見つめ直し、今まで気付くことのできなかった自分の課題に向き合うことができました。

ぜひ、職員室などにおける普段からの対話(雑談)を大切に、困っていたり悩んでいたりする教職員がいたら助け合い、おかしいと感じたことは指摘し合える素敵な職場をつくっていきましょう。そのような組織の中で実感する同僚や子供たち、保護者、地域から支えられているという「感謝の気持ち」をもつことが、チーム学校の礎となるだけでなく、不祥事根絶につながる大切な意識・視点なのだと改めて学ぶことができました。

